イザヤ書33－35章「神の報い」

1A 立ち上がられる主 33

1B 主への待ち望み 1－6

2B 焼き尽くす火 7－16

3B 都におられる王 17－24

2A 主の復讐 34

1B 大虐殺 1－15

2B 主の書物 16－17

3A 救いの喜びと楽しみ 35

1B 荒地に川 1－7

2B 贖われた者の大路 8－10

本文

イザヤ書 33 章からです。ついに、イザヤ書の前半部分のクライマックスに入ります。33 章から 35 章までを今日お読みしますが、それから 36 章から 39 章までは預言ではなく、これまでの預言の歴史的背景を読みます。

1A 立ち上がられる主 33

1B 主への待ち望み 1－6

33:1 ああ。自分は踏みにじられなかったのに、人を踏みにじり、自分は裏切られなかったのに、人を裏切るあなたは。あなたが踏みにじることを終えるとき、あなたは踏みにじられ、あなたが裏切りをやめるとき、あなたは裏切られる。

「ああ」という言葉から始まっています。これは、アッシリヤに対する言葉です。彼らが、数々の国々を征服して、踏みにじっていったことを主は語られています。しかし、彼らがそれをやめた時に、踏みにじられる、裏切られると主は言われます。そうですね、これは高ぶった者たちの姿です。自分が貶められることを恐れて、それで他の人々を貶めていくのですが、貶め続けなければ自分が貶められることを知っています。しかし、それはいつまでも続きません。だから、「高慢は破滅に先立つ(16:18)」と箴言に書いてあるとおりになります。

33:2 主よ。私たちをあわれんでください。私たちはあなたを待ち望みます。朝ごとに、私たちの腕となり、苦難の時の私たちの救いとなってください。33:3 騒ぎの声に国々の民は逃げ、あなたが立ち上がると、国は散らされます。33:4 あなたがたの分捕り物は、油虫が物を集めるように集められ、いなごの群れが飛びつくように飛びつかれる。

今、エルサレムに取り囲まれている者たちの、主を待ち望む者たちの声がここに書かれています。朝ごとに待ち望んでいます。待っても次の日の朝、やはりアッシリヤ軍が包圍していました。けれども、1 節に語られている言葉を信じて、彼らが自分たちで倒れることを信じて、待っている姿です。主が復讐してくださる、主が救ってくださると信じて待っているのです。そして主が立ち上がられれば、これらの軍隊は散らされて、残された分捕り物をあさるようにしてくださると願っています。

33:5 主はいと高き方で、高い所に住み、シオンを公正と正義で満たされる。33:6 あなたの時代は堅く立つ。知恵と知識とが、救いの富である。主を恐れることが、その財宝である。

すばらしい約束です。まず、主はいと高き所におられる方です。どんな強い勢力がいようと、それよりも主は高い所におられます。そして、「シオンを公正と正義で満たされる」です。シオンとは、今、ヒゼキヤまたエルサレムの住民が主を待ち望んでいるその場所であります。皆さんが主を待ち望んでいるなら、その場所において主の公正と正義が満ちます。そして、神の救いについての知識と知恵も満ちます。私たちが、キリストの血によって罪から救われました。その救いが、自分の生活の中で十分に満ち渡るといことです。そして、これらのことをすべて可能にするのは、「主を恐れる」所から来ます。今の状況が分からない、とても苦しい。しかし、主が事を行ってくださる、立ち上がってくださる、だから辛抱強く待つ。これが主を恐れることです。

2B 焼き尽くす火 7-16

33:7 見よ。彼らの勇士はちまたで叫び、平和の使者たちは激しく泣く。33:8 大路は荒れ果て、道行く者はとだえ、契約は破られ、町々は捨てられ、人は顧みられない。33:9 国は喪に服し、しおれ、レバノンにははずかしめを受けて、しなび、シャロンは荒地のようになり、バシヤンもカルメルも葉を振り落とす。

これは、アッシリヤによって倒されていくユダの勇士たちのことです。そしてエルサレムから金銀を取り出し、アッシリヤに対して和平交渉を試みるもすべて失敗している人々の姿です。そして、アッシリヤの侵攻によって、大路が荒れ廃れ、町も捨てられている姿です。そして、杉の木で有名なレバノン、シャロン、バシヤン、カルメルも農耕や牧畜で有名ですが、そこが荒れ廃れてしまっています。

33:10 「今、わたしは立ち上がる。」と主は仰せられる。「今、わたしは自分を高め、今、あがめられるようにしよう。33:11 あなたがたは枯れ草をはらみ、わらを産む。あなたがたの息は、あなたがたを食い尽くす火だ。33:12 国々の民は焼かれて石灰となり、刈り取られて火をつけられるいばらとなる。

主が、立ち上がる時が来ます。主は御座に着いておられます(詩篇 110:1)。そして、すべてのことを支配しておられます。そして、そのことは一部の者たちにだけ明かされて、他の不信仰な者た

ちには隠されています。しかし、主はすべての目をご自分こそが神であり、まことの王であることを示すために立ち上がってくださいます。不信者の目にも、否応なしにこの方が神であることを見せる時が来るのです。そして午前中、お話ししましたように、主が燃え盛る火として現れます、

33:13 遠くの者よ。わたしのしたことを聞け。近くの者よ。わたしの力を知れ。」33:14 罪人たちはシオンでわななき、神を敬わない者は恐怖に取りつかれる。「私たちのうち、だれが焼き尽くす火に耐えられよう。私たちのうち、だれがとこしえに燃える炉に耐えられよう。」

主が全ての者たちにご自分を知らせる業を行なわれる時に、エルサレムから多くの者たちには、伝聞として伝わっていきます。かつて、エジプトにおいて紅海をイスラエルが渡り、エジプトの精鋭部隊をすべて水に沈めた時に、それがカナンの町々にも伝わっていたのでラハブが、そのことを自分が匿ったイスラエル人に伝えました。それと同じようにすると言われており、そして近くにいる者たちは、間近でその偉大な力を目撃します。そして、その火による裁きは自分たちをも飲みこむのではないかと恐れています。しかし、主を待ち望んでいる者たちによっては、燃え尽くす火も自分たちを清める火となります。

33:15 正義を行なう者、まっすぐに語る者、強奪による利得を退ける者、手を振ってわいろを取らない者、耳を閉じて血なまぐさいことを聞かない者、目を閉じて悪いことを見ない者、33:16 このような人は、高い所に住み、そのとりでは岩の上の要害である。彼のパンは与えられ、その水は確保される。

主によって清められた者たちの姿です。その人たちは、具体的にはどう言う人かをここに書いています。一つは、「まっすぐに語る」ということです。つまり、偽りが無いということ、真実を語るということです。そして、利得やわいろと言ったような、計算した動きをしないことです。そして、悪から遠ざかります。耳においても目においてもそうです。清められ者、正しい者こそが、主によって守られており、また備えも与えられるということでもあります。

3B 都におられる王 17-24

33:17 あなたの目は、美しい王を見、遠く広がった国を見る。33:18 あなたの心は、恐ろしかった事どもを思い起こす。「数えた者はどこへ行ったのか。測った者はどこへ行ったのか。やぐらを数えた者はどこへ行ったのか。」33:19 あなたは、もう横柄な民を見ない。この民のことばはわかりにくく、その舌はどもって、わけがわからない。

時は終わりの日の幻です。「美しい王を見、遠く広がった国を見る」であります。ああ、なんとこの日が待ち遠しいことでしょうか！麗しき主、イエス様が王となられて、そして遠くにまで広がった御国があります。そしてそこには、アッシリヤのような横柄な民はいません。以前、エフライムに対する裁きで、外国の言葉を自分たちのところで聞くようになる、というものがありませんでしたが(28:11-13)、

もう支配する民の外国語は聞かれなくなる、ということです。

33:20 私たちの祝祭の都、シオンを見よ。あなたの目は、安らかな住まい、取り払われることのない天幕、エルサレムを見る。その鉄のくいはとこしえに抜かれず、その綱は一つも切られない。

イザヤは麗しい王から、回復したシオン、エルサレムを見えています。そこは一つに、「祝祭の都」です。そこは一つに、「祝祭」があります。主をほめたたえ、主を祝福する祭りが行われているところです。そして、そこは安らかで、取り払われることはありません。これまで、エルサレムは敵によって引き抜かれることがありました。バビロンによって、ローマによって引き抜かれました。しかし、永遠の都においては、安全で、安心です。したがって、皆さんの与えられている神の救いも、安全で安心なのです。

33:21 しかも、そこには威厳のある主が私たちとともにおられる。そこには多くの川があり、広々とした川がある。櫓をこぐ船もそこを通わず、大船もそこを通らない。

シオンには、川が流れています。エゼキエル書には、この川の水源は神殿そのものであり、そこから流れ出る水がエルサレムを通り、それから地中海と死海に流れ込むことが書かれています。王の都の前の川には船が通っていないのは、王に対する敬意を示しているためです。そこに、人々が邪魔しにこない、主の前にただひれ伏す威厳の空気だけが漂っています。

33:22 まことに、主は私たちをさばく方、主は私たちの立法者、主は私たちの王、この方が私たちを救われる。

主をほめたたえています。民主主義の中にある「三権分立」の三つの権威がすべて書かれています。主が裁かれる方というのは司法のことです。立法者はもちろん、立法のことです。それから「王」、行政です。人にこれらの権力を集中させてはいけないということで三権分立がありますが、主がその三つの務めをになわれます。

33:23 あなたの帆の綱は解け、帆柱の基は、結びつけることができず、帆は、張ることもできない。そのとき、おびたしい分捕り物や獲物は分け取られ、足なえさえも獲物をかすめ奪う。33:24 そこに住む者は、だれも「私は病気だ。」とは言わず、そこに住む民の罪は赦される。

主がなされることは、「分捕る」ということです。これは、これまですべて負であると考えられていたこと、悪であったもの、それらすべてがごっそり、神のご目的のために用いられている姿です。すべてのことを働かせて益としてくださる方の姿です。そして、病が癒されます。病の癒しと共に罪の赦しも与えられます。病と罪の赦しはつながっています。病が直るということは、単にその箇所が癒されること以上に、全人的な癒しが与えられることです。罪によって病が入りましたが、その

罪が取り除かれるなら、霊と魂だけでなく体も癒されます。

2A 主の復讐 34

1B 大虐殺 1-15

34:1 国々よ。近づいて聞け。諸国の民よ。耳を傾けよ。地と、それに満ちるもの、世界と、そこから生え出たすべてのものよ。聞け。34:2 主がすべての国に向かって怒り、すべての軍勢に向かって憤り、彼らを聖絶し、彼らが虐殺されるままにされたからだ。34:3 彼らの殺された者は投げやられ、その死体は悪臭を放ち、山々は、その血によって溶ける。34:4 天の万象は朽ち果て、天は巻き物のように巻かれる。その万象は、枯れ落ちる。ぶどうの木から葉が枯れ落ちるように。いちじくの木から葉が枯れ落ちるように。

主がアッシリヤを、シオンの前で打ち滅ぼされました。それと同じことを、世界的に行なわれるのが終わりの日です。「すべての国」という言葉が大事です。聖書には、世界からの王たちが、メギドと呼ばれる丘に集結することが預言されています。「ハルマゲドン」の戦いです。「メギドの山」という意味です。そして、反キリストの率いる諸国の王たちによる軍隊が、イスラエルの民を滅ぼそうとします。しかし彼らは、ボツラに逃げます。しかし、天から主がやって来て、これらの軍隊と戦われます。そして戦線は、エルサレムに移ります。あらゆる国々がエルサレムに攻め入ってきますが、その時に主が来られてこれら国々を瞬く間に滅ぼして、そしてご自身はオリーブ山に立たれます。

この一連の出来事を、「すべての軍勢に向かって憤り、彼らを聖絶し、彼らが虐殺される」と言われています。主が虐殺を行なわれるのですか？と思われるかもしれませんが、しかし、ここで知らなければいけないのは、これらは彼らが行なっていることに対する報いだということです。彼らが苦しみを与えているのであれば、それに等しい苦しみを与えらえるということです。言い換えれば、「復讐は主のものである」ということであります。ですから、このような箇所を読む時に、私たちは主を畏れかしこんで、「裁かれるのは主ご自身だ」ということを祈ればいいです。

そして、これら倒れる者たちの遺体が積み上がる様子が描かれていますが、黙示録 19 章において、これらの死体を猛禽類がついばむ「神の大宴会」が描かれています。それから、天の万象が朽ち果てます。しかし、それは新しい秩序、エデンの園のようにこの地が刷新されるために必要な過程です。

34:5 天ではわたしの剣に血がしみ込んでいる。見よ。これがエドムの上に下り、わたしが聖絶すると定めた民の上に下るからだ。34:6 主の剣は血で満ち、脂肪で肥えている。子羊ややぎの血と、雄羊の腎臓の脂肪で肥えている。主がボツラでいけにえをほふり、エドムの地で大虐殺をされるからだ。34:7 野牛は彼らとともに、雄牛は荒馬とともに倒れる。彼らの地には血がしみ込み、その土は脂肪で肥える。34:8 それは主の復讐の日であり、シオンの訴えのために仇を返す年である。

今、話しましたように、イスラエルの残りの者たちはエドムの首都、ボツラのほうに逃げます。それが、今のヨルダンのペトラであると考えられます。そこに彼らを救うために主が来られますが、主は、いけにえを祭司たちがほふるようにして、殺されます。それが、「主の復讐の日であり、シオンの訴えのために仇を返す年」と言っていますね。エドムは、エサウの子孫ですが、彼らは事あればイスラエルやユダに対して悪意を持ち、ユダが倒れれば喜んでいました。エサウがヤコブにだまされたことを根に持ち、いつまでも仕返ししようとする態度、これは罪であり、神によって裁かれます。そして主は、エドムが自分が憎んで彼らに仕返ししているその罪に対して、イスラエルのために仇を帰すのです。復讐は主のものであります。憎しみや仕返し鎖を解くのは、このように神に任せらる信仰です。

34:9 エドムの川はピッチに、その土は硫黄に変わり、その地は燃えるピッチになる。34:10 それは夜も昼も消えず、いつまでもその煙は立ち上る。そこは代々にわたって、廃墟となり、だれも、もうそこを通る者はない。

エドムは、永遠の廃墟となります。火も硫黄も流れ、燃焼材となるピッチもあります。地上の神の国において、エドムと、また他の箇所によればバビロンも永遠の廃墟となるとありますので、永遠の滅びが永遠の命と並立していることが分かります。それが、新天新地が始まってからも同様で、火と硫黄の池を示す第二の死のことが、黙示録 21 章、22 章にも言及されているのです。私はここから、「万人救済論主義を信じていません。万人救済主義とは、全ての人々が、悪魔でさえも被造物はすべて究極的には救われるとする立場です。

34:11 ペリカンと針ねずみがそこをわがものとし、みみずくと鳥がそこに住む。主はその上に虚空の測りなわを張り、虚無のおもりを下げられる。34:12 そのおもだった人たちのうち、王権を宣言する者が、だれもそこにはいない。すべての首長たちもいなくなる。34:13 その宮殿にはいばらが生え、要塞にはいらくさやあざみが生え、ジャッカルに住みか、だちょうの住む所となる。34:14 荒野の獣は山犬に会い、野やぎはその友を呼ぶ。そこにはこうもりもいこい、自分の休み場を見つける。34:15 蛇もそこに巣を作って卵を産み、それをかえして、自分の陰に集める。とびもそれぞれ自分の連れ合いとそこに集まる。

「虚空」「虚無」という言葉が大事ですね。それは王がいない状況を示しており、ここにあるように誰も住まない無人地帯になっていることを示しています。私はこのような箇所を読むたびに、原発事故の周辺地域がしばらくそのような感じになっていたことを思います。

虚空とか虚無は、天地創造の時に、一日目が始まる時にあった状態です。「地には形がなく、何もなかった。(1:2)」とあります。そこに主なる神が光よあれ、と言われて夜と昼が区別され、それから空が、そして海と陸、また植物が、それから天体、そして海と空の生き物、そして陸の生き物です。このようにして、神が王となっていることによってそこに命が生まれました。その反対の現

象を、神は裁きにおいて行なわれるということです。形あるもの、意味あるものを、全く無くしてしまう、虚空と虚無です。

2B 主の書物 16-17

34:16 主の書物を調べて読め。これらのもののうちどれも失われていない。それぞれ自分の連れ合いを欠くものはいない。それは、主の口がこれを命じ、主の御霊が、これらを集めたからである。
34:17 主はこれらのもののために受ける割当てをくじで定め、御手が測りなわで測ってこれを分け与えたので、とこしえまでも彼らはこれを所有し、代々にわたって、ここに住む。

すばらしい約束です。主が確かに、イスラエルの民に与えられた土地の約束は必ず果たすことを、ここで約束されているのですが、それを保証するにあたって、主の書物に、そのつながりに約束があるからだと言います。そしてその前に、エドムの破壊についても、当時、これを聞いていた人々にとって考えられないことだったでしょう。けれども、その通りになるということです。

私たちは、このように聖書通読の学びをしているのは、主のこの命令のゆえです。「主の書物を調べて読め。これらのもののうちどれも失われていない。それぞれ自分の連れ合いを欠くものはいない。」とあります。聖書の書物は、決してどれ一つ失われるものではないということ覚えておきましょう。「55:11 そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、むなしく、わたしのところに帰っては来ない。必ず、わたしの望む事を成し遂げ、わたしの言い送った事を成功させる。」そして、それぞれの言葉が失われることはないだけでなく、連れ合いがいると言います。つまり、関連している主の言葉がある、ということです。ですから、私たちがこうやって聖書の学びをする時に、一つの言葉と関連する他の箇所も見て、その全体の中で神の御言葉を見ていく、言い換えれば神のご計画全体を見ていく作業をしています。

そして、「主の口がこれを命じ、主の御霊が、これらを集めたからである。」とあります。これも大事な教えです。すべての言葉は、靈感、すなわち神の国から出たもので、御霊によるものなのだ、ということです。「2テモテ 3:16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。」そして、「2ペテロ 1:21 なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです。」

3A 救いの喜びと楽しみ 35

そして、イスラエルの人たちに、約束の地を回復させてくださるのですが、世界全体も主による救いを経験します。

1B 荒地に川 1-7

35:1 荒野と砂漠は楽しみ、荒地は喜び、サフランのように花を咲かせる。35:2 盛んに花を咲かせ、喜び喜んで歌う。レバノンの栄光と、カルメルやシャロンの威光をこれに賜わるので、彼らは

主の栄光、私たちの神の威光を見る。

荒野と砂漠が楽しむ、とあります！まるでそれが生きているかのように書いていますが、神が人に贖いを与えられるだけでなく、被造物にも贖いを与えられるからです。「ローマ 8:19-22 被造物も、切実な思いで神の子どもたちの現われを待ち望んでいるのです。それは、被造物が虚無に服したのが自分の意志ではなく、服従させた方によるのであって、望みがあるからです。被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられます。私たちは、被造物全体が今に至るまで、ともにうめきともに産みの苦しみをしていることを知っています。」荒地や砂漠の多いイスラエルにとって、これは神の救いを目で見るような回復であります。そして、先ほどしておいて衰えると言われていた、レバノン、シャロン、カルメルに回復が与えられます。

35:3 弱った手を強め、よろめくひざをしっかりとさせよ。35:4 心騒ぐ者たちに言え。「強くあれ、恐れるな。見よ、あなたがたの神を。復讐が、神の報いが来る。神は来て、あなたがたを救われる。」

主は、これを聞いている者たちに勧めを与えられます。一つは、「弱った手を強め、よろめくひざをしっかりとさせよ。」であります。アッシリヤが取り囲んでいるその現実を目の前にして、信仰によって忍耐している忍耐力が落ちていきます。それが弱った手であり、よろめく膝です。しかし、しっかりとしなさいと励ましておられるのです。主が訓練を与えられるというところで、ヘブル書の著者はこの箇所を引用しています。「12:11-12 すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます。ですから、弱った手と衰えたひざとを、まっすぐにしなさい。」

そして、もう一つの勧めは、「強くあれ、恐れるな。」とあります。いつも反対する力を見ていると、心が萎えてしまう、心が折れてしまいます。しかし、強くあれ、恐れるなど励ましておられます。その理由は、主が復讐してくださるからです。主が報いを与えられます。必ず、救いを下さいます。黙示録の最後には、教会に対してイエス様が語ってくださいました。「黙示 22:12 見よ。わたしはすぐに来る。わたしはそれぞれのしわざに応じて報いるために、わたしの報いを携えて来る。」主は報いてくださいます！必ず、この曲がった世をまっすぐにしてください。だから、弱った手をしっかりと強めてください、足をしっかりとしてください。そして恐れなくていてください。

35:5 そのとき、盲人の目は開かれ、耳しいた者の耳はあけられる。35:6 そのとき、足なえは鹿のようにとびはね、おしの舌は喜び歌う。荒野に水がわき出し、荒地に川が流れるからだ。35:7 焼けた地は沢となり潤いのない地は水のわく所となり、ジャッカルの伏したねぐらは、葦やパピルスのみどりとなる。

これまで、イザヤは、目の見えないこと、耳の聞こえないこと、口が聞けないことについて話していました。しかし、それは霊的な目、霊的な耳、口に関わることでした。主の言葉を聞けるのか

どうか、ということです。けれどもここでは、物理的に盲目な人、耳の聞こえない人、口の利けない人の話をしています。したがって、これらのことをできるのは神ご自身であり、御国の到来なのです。ゆえに、イエス様が来られてこれらのことを行なわれた時に、人々は神をあがめました。それは、神の国の現れそのものだったからです。

バプテスマのヨハネが、牢に入れられていました。彼も、ここにいる残りの民のように、信仰をもって忍耐していたけれども、弱まっていたのでしょう。果たして、来るべき方はイエスなのかどうか、使いを送って尋ねたのです。イエス様の言葉は次の通りでした。「ルカ 7:22-23 あなたがたは行って、自分たちの見たり聞いたりしたことをヨハネに報告しなさい。盲人が見えるようになり、足なえが歩き、らい病人がきよめられ、つんぼの人が聞こえ、死人が生き返り、貧しい者に福音が宣べ伝えられています。だれでも、わたしにつまずかない者は幸いです。」

そして先ほどのエドムの地とは逆に、焼けた地、ジャッカルのねぐら、これらがエジプトにあるような水の豊かなところとなります。このように、主は恵みによって逆転してくださる方です。

2B 贖われた者の大路 8-10

そして、回復したイスラエルに招かれる人々は、世界中に散らばっている贖われたユダヤ人です。イエス様は、こう言われました。「マタイ 24:31 人の子は大きなラツパの響きとともに、御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで、四方からその選びの民を集めます。」そのことを預言しているのが、次の約束です。

35:8 そこに大路があり、その道は聖なる道と呼ばれる。汚れた者はそこを通れない。これは、贖われた者たちのもの。旅人も愚か者も、これに迷い込むことはない。35:9 そこには獅子もおらず、猛獣もそこに上って来ず、そこで出会うこともない。ただ、贖われた者たちがそこを歩む。35:10 主に贖われた者たちは帰って来る。彼らは喜び歌いながらシオンにはいり、その頭にはとこしえの喜びをいただく。楽しみと喜びがついて来、嘆きと悲しみとは逃げ去る。

これまでの「大路」ということばが、イザヤ書に数多く出てきました。イスラエルとユダを取り囲む国際環境を取り扱って来ていたので、それで大路が開ける、そこで人々が安全に動けるということは、彼らの念願であったに違いありません。イザヤ 19 章の終わりには、エジプトからアッシリヤまでの大路があり、彼らは真ん中にあるイスラエルにおられる主を礼拝し、仕えるためにやってくるがありました。そして今、世界に離散していたけれども、主がシオンに戻って来られて、それで贖われた者たちが、大路をとおってその救いを喜んでいる場面です。

何度も、ここが贖われた者たちだけの聖なる道であることを強調しています。その贖いについて、イエス様はこのように言われました。「マルコ 10:45 人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与える

ためなのです。」イエス様が、ご自分の命を身代金として、罪に、悪魔の奴隷となっていたこの者を
取り戻してくださいました。そして、その贖われた者には、これからもいろいろな困難、誘惑がある
かもしれませんが、シオンにいる王のところに行くことのできる道を用意しておられるということ
があります。私たちは必ず、天から降りてこられるイエスにお会いすることができます。信仰の戦いを、
勇敢に戦ってください。

そして、すべての嘆きや悲しみは、キリストの血に洗われて、楽しみと喜びに変えられます。罪に
よってもたらされる悲しみの中で押しつぶされることがありませんように。むしろ、その罪をイエス
がすべて負ってくださった、自分が負う必要はないのだということに気づいてくださいますように。
そして、主はその疲れた魂をわたしのところに来て、癒されなさいと命じておられることを思い出し
てください。主が、哀しみを喜びに、憂いを楽しみに変えてくださいます。